

# 命の花プロジェクト ～想いを咲かせて未来へつなぐ～

青森県立三本木農業恵拓高等学校 動物科学科 愛玩動物研究室

高校生ボランティア・アワード2026



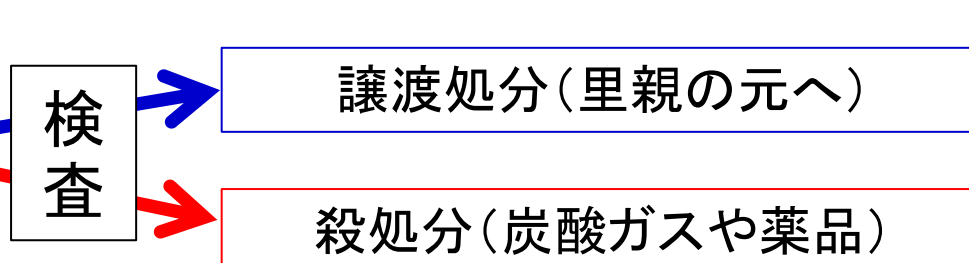
## 背景・目的

私たち愛玩動物研究室では、愛玩動物いわゆるペットについて研究を行っています。平成24年、私たちの先輩方は青森県動物愛護センターの施設見学で、センターに保護された動物たちの殺処分の現状を知りました。「高校生として命と真正面から向き合いたい」という強い想いから、「命の花プロジェクト」活動にたどり着きました。これは、殺処分された動物たちの骨を手作業で細かくし、土に入れて混ぜ、花を育て土に還す活動です。殺処分された動物たちの「もっと長く生きたかった。」という想いを、花に命を与えることで遂げてほしい、この活動を通じて「命の尊さ」と「殺処分の現状」を訴えたいと考え活動を継続しています。



## きっかけは「施設見学」

青森県動物愛護センターでは、保護された犬や猫の写真をホームページに載せて飼い主に返還するとともに新しい飼い主に譲渡するよう努めたり、動物とのふれあいによる命の大切さとアニマルセラピーによる癒しの効果を体験する活動をしたりするなど、動物の幸せのための愛護事業を行っている場所です。センターに保護された動物は、健康診断と性格診断をして、病気がないか、噛み癖がないかなどを調べます。検査に合格した動物は、新しい飼い主を募り、譲渡されます。しかし、飼い主が現れなかったり、検査に不合格だったりした動物は殺処分されます。



## 保護された動物の現状

環境省の調査によれば、2024年度の全国における殺処分数は、犬が1,964頭、猫が4,886頭でした。全国の動物愛護センターにおける飼い主からの動物の引き取り理由は、飼い主の「病気」、「引っ越し」など最後まで飼育ができなくなったことによるものが多くあげられています。

青森県動物愛護センターでは、殺処分され、焼却された動物たちの骨は事業系一般廃棄物として扱われていることを知りました。殺処分された上に土に還ることさえできない現実には大きなショックを受けました。

- 引き取り理由
- 1 飼い主の病気・疾病等
  - 2 飼い主の経済的理由
  - 3 動物の問題行動
  - 4 動物が高齢・病気
  - 5 飼い主の引っ越し
  - 6 その他



## 目標

1. 命の花をより多くの方々に理解してもらうため、イベントなどで積極的に配布する。
2. 鉢上げ体験を通して命の尊さと殺処分の現状をしっかりと伝える。

## 青森県動物愛護センターに協力を依頼

青森県動物愛護センターに協力を依頼したところ、快く活動に賛同して頂き、骨を頂いています。また、毎年9月には愛護センター主催の「動物愛護フェスティバル」において命の花の鉢上げ体験を行っています。



## 「命の花」ができるまで

### ①「命の花」の品種の選定・・・花言葉から選んでいます



**マリーゴールド**  
生命の輝き  
変わらぬ愛



**ケイトウ**  
感謝  
希望



**忘れな草**  
私を忘れないで



**パンジー**  
私を想って



**ネモフィラ**  
どこでも成功  
あなたを許す



**ニチニチソウ**  
優しい追憶

### ②「命の花」を育てる・・・心を込めて手作業で育てています

骨を細かくする → 土に混ぜる → 種をまく → 苗を育てる



殺処分された動物の骨をレンガを使い手作業で細かくします。



骨と培養土を1:9の割合で混ぜます。



花の種をまきまします。



移植できる大きさまで育てます。

## 「命の花」の鉢上げ体験

活動に賛同される方に、動物たちの殺処分の現状について一人ひとり丁寧に説明しながら「命の花」の鉢上げ体験していただいています。「鉢上げ」とは、命の花の苗を、専用の鉢へ植え替える作業のことです。

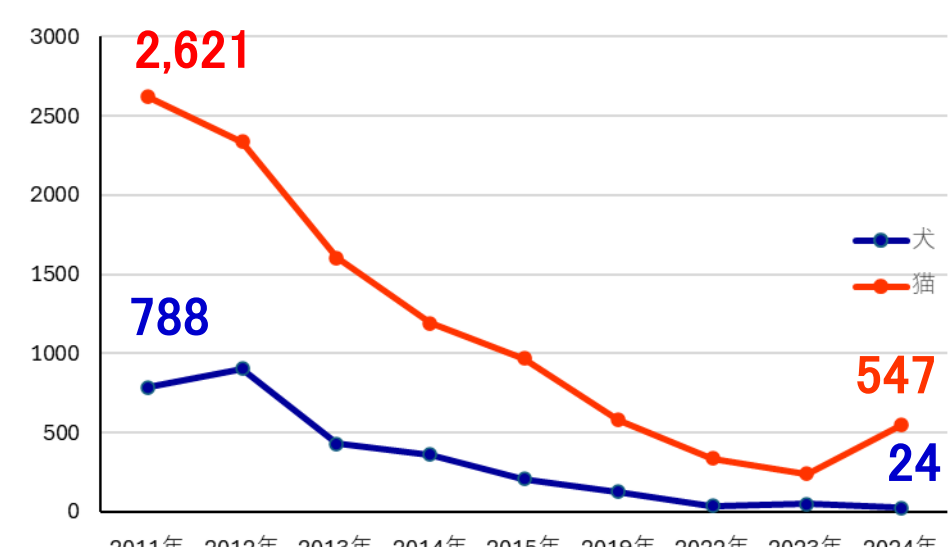


## 「命の花」の配布・普及活動

毎年、本校で企画運営する犬の運動会「犬の祭典」や文化祭で「命の花」を配布し、殺処分数減少へ向けて普及活動を継続しています。また、県内外でのさまざまなイベントに参加させていただき、多くの方のもとへ「命の花」を届けています。



## 青森県の殺処分数



## 今後の課題

1. さらに多くの方々に理解してもらうため、イベントなどで「命の花」を積極的に配布し、殺処分数減少につなげたい。
2. 引き取り理由が改善できるようなプロジェクトを考える。

## 活動団体プロフィール

本校の動物科学科は、ウシやウマ、イヌ、ネコなどの畜産から社会動物まで専門的に勉強できる青森県内唯一の学科です。1年生のときに寮に入ることが義務づけられていて、規則正しい寮生活を送りながら学校生活をしています。2年生から畜産加工研究室、産業動物研究室、馬学研究室、愛玩動物研究室のいずれかの研究室に所属し、生徒自らが課題を設定して研究に取り組んでいます。

私たち愛玩動物研究室では、3年生14名、2年生11名で活動し、イヌやネコ、ポニーなどの愛玩動物を実際に飼育しながら「人と動物が幸せに暮らせる共生社会の実現」というメインテーマで研究を行っています。

